

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

2020 年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿とは、一人一人の児童が 自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することである。

これまでの「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、子どもたちの思考を深める「発問」を重視していくことや、子どもたち一人一人の多様性と向き合いながら一つのチームとしての学びを高めていくことが重要である。誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、一人一人の児童が生涯にわたって能動的に学び続けることをめざしていく必要がある。

本校のスローガンは「みんながつくる みんなの学校 長原小」であり、「みんな=自分」として、「当事者意識」を大切にしている。学校教育目標は、「子どもも大人もいきいきしている学校」であり、キーワードは、「笑顔」「元気」「楽しい」の3つである。そして、「子どもに育みたい3つの力」として、

一つ目は、「自分も人も大切にする力」（「思いやり」「自信」「自分が好き」「自尊感情」）であり、二つ目は、「自分で考え、行動する力」（「自分らしく」「主体的」「自分の言葉で語る」）であり、三つ目は「自分からチャレンジする力」（「夢」「目標」「あきらめない」「やりがい」）を掲げ、子どもも大人もそれぞれの力を高めている。

こうした「子どもに育む力」を常に意識しながら、教科指導や生活指導など、学校生活のあらゆる場面で、その実現に向けて教育活動を進めていく。なかでも、「安全対策」については「子どもの命を守ることを最優先課題として取り組んでいく。また、「学力向上」については、「わかる・できる」＝「楽しい」の原点を肝に銘じて、日々の授業力向上に取り組んでいく。「体育的活動」については、健康であること第一として、運動能力がバランスよくなるように日々の体力向上に取り組んでいく。「読書活動」については、「本は財産」と言われるごとく、児童にとっての貴重な経験の場になるため、数多くの本にふれることのできる活動に取り組んでいく。

そして、「めざす学校の姿」は「学校と家庭と地域がひとつになって『自己肯定感』をもつ子どもを育てる教育活動を推進する」ことである。「自己肯定感」や「自己有用感」をもつことはとても大切な課題である。「授業を開く」や「地域を開く」など、学校が常にオープンに家庭や地域等との連携・協働した教育を推進することは必須である。常に子どもを真ん中にして、学校と家庭と地域をつなぐことができる学校運営に取り組んでいく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ①令和7年度の小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ②令和7年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①令和7年度の小学校学力経年調査の「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を、35%以上にする。
- ②令和7年度の小学校学力経年調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を68%以上にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ①令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ②令和7年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を95%以上にする。
- ③令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を85%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ①令和6年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②令和6年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ③令和6年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①令和6年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を、30%以上にする。
- ②令和6年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。
- ③令和6年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ①令和6年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ②令和6年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- ③令和6年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を80%以上にする。
- ④第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を85%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### ☆各取り組み内容の達成状況 (ⒶⒷⒸ)

##### 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- Ⓐ 取組内容①【安全・安心な教育環境の実現】  
Ⓑ 取組内容②【豊かな心の育成】  
Ⓑ 取組内容③【豊かな心の育成】  
Ⓐ 取組内容④【豊かな心の育成】

##### 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- Ⓑ 取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】  
Ⓐ 取組内容②【健やかな体の育成】

##### 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- Ⓑ 取組内容①【教育DXの推進】  
Ⓐ 取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】  
Ⓐ 取組内容③【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

#### ☆総括 (●成果 ▲課題 ◆次年度に向けて)

- Ⓐ評価が5項目、Ⓑ評価が4項目と全項目で目標を達成している。
- 職員室に情報が集約される体制が整ってきた。チーム担当制にしたこと、職員室の会話も増えてきている。
- 長原タイム、哲学対話、縦割り活動など、様々な場面での話し合い活動が増えたことで、自分の考えを表現したり、広げたり深めたりすることができた。
- 大人がやりたい学び（やりたい研究、管外出張での学校視察、講師の招聘など）をつくることができた。また、大人のチームワークの良さが、運動会や長原フェスティバル、学校HPなどを通して、地域・サポーターにも発信することができた。
- 「教員の働き方改革」については、タイムマネジメントを意識した働き方が身についた。（時間外勤務時間：月平均12時間程度）また、「働きがい」のある職場環境や仕事環境を生み出したことで、学校組織の活性化へつながった。
- ▲ミマモルメ未登録の家庭への登録を促していく。
- ▲学年担当間での連携を密にし、情報共有の漏れをなくす。
- ◆子どもを信じて任せ、委ね、認めていくように、子どもが自分で考える機会を多く設ける。
- ◆学習者用端末の持ち帰りの日数を増やしていく。
- ◆より子どもも大人もゆとりがもてるように、「校時表の見直し」を行う。

(様式2)

## 大阪市立長原小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b> ①令和6年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	
<b>R6中間評価⇒89%</b> <b>R6最終評価⇒88%</b>	B
②令和6年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	
<b>R6中間評価⇒74%</b> <b>R6最終評価⇒79%</b>	B
③令和6年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。	
<b>R6中間評価⇒92%</b> <b>R6最終評価⇒92%</b>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・職員室に情報が集約されるよう、どんな些細なことでも何かあれば職員室に伝えることや「全児童確認ボード」を活用して、日々の児童情報を共有する。 ・「ミマモルメ」の全保護者の登録を図る。	
指標 ・年度末の学校アンケート（サポーター）において「学校は問題が起ったときは迅速に対応している」の肯定的な回答をする割合を95%以上にする。	A
<b>R6中間評価⇒96%</b> <b>R6最終評価⇒96%</b>	A
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・道徳教育やキャリア教育、人権を尊重する教育（「ちがいを認め合う実践」）などを行い、自己を見つめ、自己肯定感を高める学習を行う。	
指標 ・年度末の学校アンケート（子ども）において「自分にはよいところがある」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。	B
<b>R6中間評価⇒74%</b> <b>R6最終評価⇒79%</b>	B
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・学年に応じた「体験活動」（1年「生活科の体験学習」「昔あそび」、2年「商店街見学」3年「今昔館」4年「大阪市立科学館」5年「読売新聞社」6年「ピース大阪」「大阪歴史博物館」等による体験や見学を通じて、キャリア教育の充実や情操豊かな心を育てる。（「校長経営戦略支援予算活用」）	
指標	B

- ・年度末の学校アンケート（子ども）において「体験学習や社会見学で積極的に活動することができる。」の肯定的な回答をする割合を85%以上にする。

**R6中間評価⇒91%**  
**R6最終評価⇒91%**

#### 取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・児童朝会や児童集会、「哲学対話」、運動会や児童会活動などの各種学校行事で「自分から自分らしく表現する」ことに子どもも大人もチャレンジする。

#### 指標

- ・年度末の学校アンケート（子ども）において「自分からチャレンジしている」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。

**R6中間評価⇒92%**  
**R6最終評価⇒92%**

**A**

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

##### 学校園の年度目標

###### ① 目標の80%を8%上回って達成した。

「学校に行くのが楽しい」では、目標80%に対してアンケート結果88%と大幅に上回っているが、不登校児童や行きしづりがある児童の数は減少していないか、むしろ増加している。(B)

###### ② 目標の80%を1%下回って達成できなかった。

「自分にはよいところがあるか」で目標80%、結果79%で目標を下回っている。3つの力のアンケートは90%を上回ってとても高い。3つの力が高まると自己肯定感が高まるはずだが、そうなっていない。(C)

###### ③ 目標の85%を7%上回って達成した。

アンケート結果が92%と目標を上回っている。これは3つの力として児童朝会などで常に意識できていたからと考える。(A)

##### 取組内容の進捗状況の結果と分析

###### ① 目標の95%を1%上回って達成した。

職員室に情報が集まる体制が整っている。SKYMENUの電子連絡版や全児童確認ボードなど情報を確認しやすくなっている。また、職員室での職員の会話も増えてきている。(A)

###### ② 目標の80%を1%下回って達成できなかった。

道徳教育やキャリア教育、人権を尊重する教育の指標として「自分にはよいところがある」ではなく「自分も人も大切にしている」が適切。(B)

###### ③ 目標の85%を6%上回った。

予定していた体験活動の中、実施できない社会見学があった。校内の体験活動が多く、1月末までに施設側との日程調整ができなかった。(B)

###### ④ 目標の80%を12%上回った。

目標80%に対してアンケート結果92%。哲学対話や運動会など、子どもも大人もチャレンジしてきた。(A)

#### 次年度への改善点

##### 学校園の年度目標

① 「楽しい」かどうかというアンケートをもっと掘り下げて、学校が行っている施策を子どもたちがどう感じているか分析していく。

② アンケートの文言が児童にとって答えにくいものになっているかもしれない、文言を工夫する。3つの力と自己肯定感の高まりをどう結びつけていくか考える。

③ 児童集会や哲学対話など、引き続き児童が自分らしく表現できるような取組を行っていく。また、児童がより意欲的に自分らしく表現（自分からチャレンジ）することができるよう、児童のチャレンジしている姿を見取り、称賛し、価値づけすることをこれか

らも大切にしていきたい。

**取組内容**

- ① まずは、学年担当間でしっかりと情報共有ができるようにしていきたい。「伝えたつもり」をなくすように、会議の場や職員間の連携を図っていくようにする。ミマモルメの登録ができるだけ 100%に近づけ、サポートへ迅速に連絡できる体制をつくる。
- ② 自己を見つめ、自己肯定感を高める学習をどのようにして行うか考える必要がある。また、担当している学年の児童に関わらず、全教職員ですべての子どもを見つめ、存在を認め、特別な取組だけでなく、日々の学校生活の様子からも自己肯定感を高められるようにしていく。
- ③ 長原タイムと関連付けて取り組むことで、より発展的な内容にすることができる。子どもが積極的に活動することができるよう、より充実した学びとなるようにしていく。計画通り実施できるよう、体験活動を精選し、2月末までに日程調整できるようにしていきたい。
- ④ 児童集会や哲学対話など、引き続き児童が自分らしく表現できるような取組を行っていく。また、児童がより意欲的に自分らしく表現（自分からチャレンジ）することができるよう、児童のチャレンジしている姿を見取り、称賛し、価値づけすることをこれからも大切にしていきたい。

## 大阪市立長原小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> ①令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を、30%以上にする。  <b>R6 中間評価⇒45%</b> <b>R6 最終評価⇒34%</b>	
②令和 6 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。  <b>R6 中間評価⇒63%</b> <b>R6 最終評価⇒69%</b>	<b>B</b>
③令和 6 年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。  <b>R6 中間評価⇒89%</b> <b>R6 最終評価⇒92%</b>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・「本につかる朝（読書タイム）」、「ドリルタイム」、「自学ノート」、「長原タイム（探究的学び等）」の活用を行い、基礎学力の向上とともに、「学びに向かう力」を高める。	
指標 ・年度末の学校アンケート（子ども）で「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。  <b>R6 中間評価⇒84%</b> <b>R6 最終評価⇒81%</b>	<b>B</b>
取組内容② 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・「なわとびタイム」や「かけ足タイム」などを実施したり、体育の授業で体を動かす時間を十分に確保したり、休み時間には外で体を動かす機会を増やしたりして、運動を楽しむ活動を充実する。	<b>A</b>
指標 ・年度末の学校アンケート（子ども）で「運動やスポーツをすることが好きである」の肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。  <b>R6 中間評価⇒86%</b> <b>R6 最終評価⇒89%</b>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

### 学校園の年度目標

#### ① 目標の 30%を 4 %上回って達成できた。

最終評価は 34%で、目標を達成できた。長原タイム、哲学対話を中心に学習や、クラス会議など、価値づけを意識して、話し合い活動を通して考えを広げることができた。(A)

#### ② 目標の 65%を 4 %上回って達成できた。

アンケートの結果は 69%で目標を達成できた。なわとびタイムやかけ足タイムの取り組みがあり達成できた。(B)

#### ③ 目標の 92%を達成できた。

アンケートの結果は 92%で、目標を達成できた。中間評価を受けて、大人が相手意識や目的意識を明確にして取り組んだ結果であると考える。日々、児童と接する中で、児童が考えて行動できていると感じることが増えてきた。(B)

### 取組内容の進捗状況の結果と分析

#### ① 目標の 80%を 1 %上回った。

最終評価は 81%で、目標を達成することができた。長原タイム、哲学対話など縦割り班や学級活動など、様々な場面での話し合い活動が増えたことで、自分の考えを表現し、成長する機会となり、友だちと協働しながら問題解決に向けて話し合い、考えを広げたり深めたりすることができた。また、読書タイムや平野図書館との連携に努め、学校図書館の活用も盛んに行うことができた。(B)

#### ② 目標の 80%を 9 %上回った。

最終評価は 89%で、目標を達成することができた。なわとびタイムやかけ足タイムでは、運動場で体を動かすことができた。また、年2回の健康生活がんばり週間でも、全学年 80%以上の児童が「外遊びや運動をしている」と回答している。(A)

### 次年度への改善点

### 学校園の年度目標

① 取組内容①と同じ。※学力経年調査はこの時期に結果が出ない。発言するだけでなく、理由を伝え合ったり、具体例を提案したりするなどして、さらに深めていくことができるようしていく。

② 休み時間が短くなつたので、体を動かす機会が減っていること、猛暑の時期に水泳以外に運動する機会があまりとれないということが課題である。授業や休み時間以外でも、運動に取り組みたいと思える工夫を考えるよう取り組んでいきたい。

③ 子どもを信じて任せ、委ね、認めていくように大人が意識し、自分で考える機会をさらに多く設けていくようとする。

### 取組内容

① 考えが広がったり深まつたりしたと感じられるように、日々の授業や取組に対しての振り返り活動を充実させていく。基礎学力の向上と「学びに向かう力」を高めることができているのか、どのような指標をもちいればいいのか、検討が必要である。

② 休み時間が 5 分になったことから、外遊びをしている児童が少ないと、高学年になると運動場で遊ぶ姿が減ってしまうことが課題であると考える。引き続き声掛けをするとともに、指導者も一緒に外に出て、遊ぶ楽しさを伝えていくようとする。

(様式 2)

## 大阪市立長原小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b>	
①令和 6 年度の授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。	<b>R6 中間評価⇒26% (9月) R6 最終評価⇒56.3% (12月)</b>
②令和 6 年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を 90% 以上にする。	<b>R6 中間評価⇒98% R6 最終評価⇒99%</b>
③令和 6 年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を 80% 以上にする。	<b>R6 中間評価⇒86% R6 最終評価⇒100%</b>
④第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 85% 以上にする。	<b>R6 中間評価⇒100% R6 最終評価⇒100%</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 6 教育DXの推進】 ・1人1台端末の環境を活かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを行う。（「がんばる先生支援事業活用」）	
指標 ・年度末の学校アンケート（子ども）において「毎日、学習者用端末（タブレット）を操作しましたか。」の肯定的な回答をする割合を 80% 以上にする。	<b>B</b>
取組内容② 【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・「新たな教師の学びの姿（主体的・自律的・常に学び続ける・個別最適な学び・協働的な学び）」に基づく研修（研究）により、いきいきとやりがいを持って自己成長することができ、学校組織を活性化する。（「校長経営戦略支援予算活用」）	<b>A</b>
指標 ・年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を 90% 以上にする。	

### 取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

・午後5時から退勤BGMを流し、セット時刻を17：30に設定することで、タイムマネジメントを意識する働き方改革を行う。

#### 指標

・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を85%以上にする。 **R6中間評価⇒100%**  
**R6最終評価⇒100%**

A

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

##### 学校園の年度目標

###### ① 目標の50%を6.3%上回って達成できた。(12月)

年度目標については、12月のみ達成できている状況ではあるが、がんばる先生支援の取組（プログラミング学習、端末保管庫の撤廃、天板拡張、ヘッドセットなど）や端末の持ち帰りで活用率は上がってきている。**(C)**

###### ② 目標の90%を9%上回って達成できた。

管外出張での学校視察や講師の先生の招聘など（校長経営戦略支援予算）、大人のやりたい学びをつくることで、いきいきとやりがいをもって自己成長することができた。大人が明るくいきいきと子どもに関わっている様子は、運動会や長原フェスティバル、学校ホームページなどを通して、地域やサポーターにも伝わっている。**(A)**

###### ③ 目標の80%を20%上回って達成できた。

やりたい研究に合わせて、各教科領域のスペシャリストの方々に講師の先生として来ていただいた。他校からの参加者も多く、魅力ある研修ができた。**(A)**

###### ④ 目標の85%を15%上回って達成できた。

年度当初より17:30セットを継続してきたことで、タイムマネジメントを意識した働き方の習慣が身についてきた。平均時間外勤務時間は、12～14時間は維持できている。**(A)**

##### 取組内容の進捗状況の結果と分析

###### ① 目標の80%を3%上回って達成できた。

がんばる先生支援の取組を中心に、各学年の実態に応じて「プログラミング」「発表ノート」「Kahoot!」「Canva」など、日々、学習者用端末の活用を図ることができた。また、端末保管庫の撤廃や天板拡張など、活用率を上げるために環境を整えることができた。**(B)**

###### ② 目標の90%を9%上回って達成できた。

管外出張での学校視察や講師の先生の招聘など（校長経営戦略支援予算）、大人のやりたい学びをつくることで、いきいきとやりがいをもって自己成長することができた。大人が明るくいきいきと子どもに関わっている様子は、運動会や長原フェスティバル、学校ホームページなどを通して、地域やサポーターにも伝わっている。**(A)**

###### ③ 目標の85%を15%上回って達成できた。

年度当初より17:30セットを継続してきたことで、タイムマネジメントを意識した働き方の習慣が身についてきた。平均時間外勤務時間は、12～14時間は維持できている。**(A)**

#### 次年度への改善点

##### 学校園の年度目標

① 校内研修や実践事例の紹介などを通して、より効果的に活用していくようにしていくとともに端末の持ち帰りの日数も増やしていくようにする。毎日のシャットダウンや心の天気の入力が身についていない児童への声かけを継続して行っていく。

② 明るくいきいきと子どもと関わることができるよう、これからも大人がやりがいをもってやりたいことができるような学校づくりに努めていく。

③ 次年度も17:30セットを継続する。よりゆとりをもって働くことができるよう、目指す子ども像に照らし合わせて学校行事や様々な取組を精選していく。

### 取組内容

- ① 校内研修や実践事例の紹介などを通して、より効果的に活用していくようにしていくとともに端末の持ち帰りの日数も増やしていくようにする。毎日のシャットダウンや心の天気の入力が身についていない児童への声かけを継続して行っていく。
- ② 明るくいきいきと子どもと関わることができるように、これからも大人がやりがいをもってやりたいことができるような学校づくりに努めていく。
- ③ 次年度も 17:30 セットを継続する。よりゆとりをもって働くことができるよう、を目指す子ども像に照らし合わせて学校行事や様々な取組を精選していく。